みちのく

少年編

—第４４号—

令和４年度　仙台矯正管区

みちのく　少年編　第四十四号　仙台矯正管区

仙台矯正管区

過去の作品はこちらから
御覧いただけます→

仙台矯正管区

仙台矯正管区フロントページ
https://www.moj.go.jp/kyousei1/kyousei08_00002

刊行のことば

本誌は、昭和五十五年の創刊号以来毎年刊行し、本号で四十四号を数えております。

当管区では「みちのく書画文芸コンクール」を開催しており、本誌には、同コンクールに応募した、当管区管内少年院の在院者の書画作品及び文芸作品のうち、各分野で御活躍の先生方の審査により入賞した作品を掲載いたしましたので、ご覧ください。

令和五年三月

仙台矯正管区

表紙の題字は久道静氏の揮毫によるものです。

「みちのく」少年編第44号
令和５年３月発行

編集発行　仙台矯正管区第三部
〒984-0825　仙台市若林区古城３－２３－１
TEL　０２２－２８６－０１７８

目次

【文芸部門入賞作品】
作文の部……【選評】川田永子 先生……2
詩の部……【選評】原田勇男 先生……11
短歌の部……【選評】上林節江 先生……14
俳句の部……【選評】鈴木三山 先生……16
川柳の部……【選評】佐藤岩男 先生……19
文芸部門審査総評……22

【書画部門入賞作品】
絵画の部……【選評】吉田利弘 先生……24
ポスター・カレンダーの部……【選評】鈴木智枝 先生……29
毛筆の部……【選評】村山柳雅 先生……32
硬筆の部……【選評】村山柳雅 先生……37
書画部門審査総評……41

作文の部

審査員

東北アララギ会「群山」編集委員
日本歌人クラブ会員
宮城県芸術協会会員

川田　永子　先生

金

自分が考える「才能」について

盛岡少年院　W・R

私は中学校に入学してから「才能」について考えていた。今も日頃から考えている。

その「才能」を考えるきっかけとなったものが、バスケットボールだ。どこの学校でも体育の授業で一度は経験するだろう。

そのスポーツを私は、中学入学と同時に部活として日々歩むことにした。

まず、何故バスケットボール部に入部したかというと、私の馬鹿らしい理由からだ。その理由は、ただただ女子にモテたかっただけである。モテるだけなら、サッカー部でも陸上部でも、どの部活でもよかった。だが、洗濯物が少ない部活に入ることを私に求めていた母の思いを汲むと、サッカー部と陸上部、野球部は断念せざるを得なかった。

それで、バスケットボール部に入部したのである。今思えば、恥ずかしい理由だと思う。

そんなこんなで、馬鹿にも程がある理由で適当に選んだバスケットボール部での日々が始まった。そして入部してから一か月後ほど経過した時に、先輩チームと新入生チームのゲームが行われた。そのゲームで、バスケットボールの楽しさに気付くことになる。

それまでの一か月は見様見真似でドリブル練習やシュート練習、両親がバスケットボールをやっていたことからアドバイスをもらい、練習を積み重ねていた。本当は駄目だが、部活終わりから夜中までやっていた。

だが、たったの一か月だ。一般的に、バスケットボールをうまく使いこなすには、少なくとも三年が必要だと言われている。もちろん、三年間練習した値にはいたっていなかったが、人生初のゲームで先輩のディフェンスを抜くことに成功した。驚きのあまり、ゲームの時が止まったかのように、私は動きを止めてしまった。まぐれだったかもしれないが、うれしいことに現実であることに変わりなかった。しかも、ディフェンスをしていた相手は三年生であり、試合にも出るような選手だった。

このことが私の転機となり、目標を見つけることができる最大のチャンスだと確信した。

それからというもの、暇があれば練習をし、三か月でスリーポイントシュートを人並みに打てるようになり、ドリブルもストリート技を用いるようになった。だが、当たり前のことだが、この時はまだまだ周囲に追いつけず、練習用の背番号すら与えられなかった。また、身長もチームで一番低く、戦場、いわばコート上では力負けしてしまう弱者であった。

私は、この悔しい思いを一時も忘れず、毎日筋肉痛になるほど、筋トレ、体幹トレーニング、体力トレーニングにも嫌を通り過ぎるほどに励んだ。食事もしっかりととり、次第に体も成長した。

その努力のかいもあり、身長はチームで上から四番目となり、本気でジャンプすれば、リングに指が届くほどだった。また、チーム内では、一対一では負けることがなくなり、先輩に誘われて、唯一高校生に交じって練習していた。

そして、そのような私に負けまいという思いからか、チーム全員が校内のどの部活よりも熱心に練習に取り組んだ。その結果、戦績がよくなるだけでなく、チームメイトの仲も深まることとなった。この時は、楽しかった。

そんな時間は、あっという間に過ぎ去り、中学校生活最後の大会「中総体」が開幕する。地区予選を勝ち抜き、県大会へと出場した。この頃には、私のチームは県内で負け知らずだった。私は注目される選手になっており、その期待に応えるように得点を一人で重ねていった。一回戦でチーム総スコアの半分をマークし、準決勝ではチーム総スコアの三分の二を稼いだ。だが決勝戦で私は自分自身の努力を疑うことになった。

決勝戦では、得点を稼いだのだが、相手チームには日本代表の選手がおり、気圧されてしまった。今までにもこの相手チームと対戦したことはあったが、この日は何か違った。

それは、努力と実力だった。

その違いを実感した私たちは、負けを認めざるを得なかった。負けたとはいえ、準優勝だったので、次の大会へ進むことはできたのだが、トーナメント戦で圧倒的な差で負けてしまった。

チーム全員で夢をみて、語ってきた全国大会の舞台には立つことができず、大会は終わった。

私はバスケットボールから離れ、チームはバラバラになった。しかし、チーム名と同士仲が良かったこともあり、毎週のように暇があれば集まり、何時間でもバスケットボールのことを語り合ったり、プレーしたりしていた。

バスケットボールを趣味として楽しめるようになっていた。

私が考える「才能」とは、楽しむことができることだと思う。きっかけはくだらない理由であっても、努力しながら楽しむことによって「才能」を得ることができるのだと信じている。

だから、この言葉があるのだと思う。

「九十九%の努力と一パーセントの実力」という言葉が。

寸評

バスケットボール部に所属して活躍していた中学生時代を省みての文章。細やかに其の経緯を綴りつつ「才能」についての解釈を順序良く語っています。「才能」とは、「九十九パーセントの努力と一パーセントの実力」なのだと、此の訓辞を引用しての締めが効いている一編です。

銀

失敗の果てに

東北少年院　I・N

私の人生は、うまくいかない事の連続でした。人を泣かせる事ばかりしていました。幼い頃に両親が離婚し、その次の年に母をガンで亡くしました。家族という中に居た当時の私は、医者や警察官を目指す、笑顔いっぱいの優しい子だったと思います。

ですが、両親が居ない家庭になってから、劣等感や孤独感に包まれて、社会や世の中に反感を持つようになりました。「なんで僕だけがこんなにみじめな思いをしないといけないんだ。社会は不平等だ。」そう思うようになり、大人や育ちのいい子供の言う事を信じる事ができなくなりました。学校の先生にも反抗するようになり、気づけば、孤立してしまいました。

その頃自分の地元に、大きな不良グループがあり、自分はそのグループと関係を持つようになりました。

そうして毎日のように非行をくり返していき、気づけば暴力団とも盃をかわそうとしていました。

この時の私は、月に何百万もの現金を非行で得ていました。ですが「ツケ」というのは必ず返ってくる物で、逮捕されてしまいました。逮捕は二回目で、留置場に入っている時も、「どうすれば外に出られるか」と考えて、被害者の方々や家族の事は考えず、軽く見ていました。

また、「次何をやろうかな」など失敗の中で更に失敗を重ねようとしていました。

ですが、その甘い考えなど、うまくいかずに「中等少年院送致」となり、この東北少年院へ来ました。

入院してすぐの時は、とにかく絶望していました。この時初めて自分のやってしまった事の重大さや悪質さに気づきました。また、自分のこれから先の人生という物もこの場所で決まる事、運命の分かれ道だという事にも気づかされました。

そして外には自分の事を待っていてくれる大事な人たちが自分の思っていたよりもはるかに多く居て、その方々に自分の更生した姿を見せる事が、天国の母への親孝行になるのではないかと自分は考えて、これから先の人生について前向きに考えるようになりましたが、現実は直す事が簡単ではなく、不良当時の考えが戻ってきてしまったり、再非行の事をふと、考えてしまう事ばかりでした。

集団寮に編入して一週間も経たずに、担任の先生に反抗して寮内での態度も悪く、単独寮へ戻されて、課題をやって、集団寮へ戻されて、またその半月後にも、寮内で上級生に対して反発して、また単独寮へ戻されて、この時くらいから、自分は、少年院の先生に対しても敵対心を持つようになりました。

そんな中、寮の先生から指導を受けている時に、感情的になってしまい、非常ベルが鳴るくらい、先生に対して距離をつめるなどをして、暴行もして調査を受ける事になってしまいました。調査期間中は全ての先生に対して、敵としてしか見る事ができず、心配して来て下さった先生方に対しても、八つ当たりをしてしまいました。

ですが、調査が終わって、単独寮に居る間にも、担任の先生や寮の先生などが、毎日のように自分の為に何時間も面接して下さり、自分の問題点を一緒に考えて下さったりしてくれました。

特に担任の先生は、自分の院内での失敗についてもフォローして下さり、支えて下さりました。丸一日以上、少年院の中に残り、自分の課題を考えて下さりました。

そして気づきました。この少年院の先生方は、自分に対して本気で向き合ってくれているという事に。

今では、外で待って下さる方々以外の、この少年院の先生方に対しても、自分が更生した姿を見せる事を目標として頑張っていますし、被害者の方々に対しても、誠意のある対応をこれから先も取っていこうと思います。

失敗ばかりしていた人間から、失敗している人を助ける、手を差し延べ

る事ができる、そんな「人としてかっこいい大人」になれるよう全力で頑張っていきます。

寸評

幼少の頃に母親を亡くし、父親とも離れて暮らした日常だったと、其の当時を振り返りつつ現在迄の筋道を詳しく書かれています。優しかった亡き母親への孝行の為にも、今後は真っ当な日常を取り戻して、失敗した人を助けられる人になりたいとの結末がしっかりしています。

銅

大切な存在

青葉女子学園　わ

私にとって、母は端的に言うと大切な存在です。好きや嫌いで言い表せない「大切」な存在です。

私の周りの友達は「お母さんは優しいから好き」とか「喧嘩したからキライ」とか、その時々の感情で母親のしたことを好き嫌いのレベルで言っていますが、私はそんなレベルで母のことを言ったりできません。私は母以外のことについてはとても好き嫌いがはっきりしていますが、母については簡単に感情のままに言うことができません。

「もう二度とお母さんを悲しませたり、裏切ったりしないでください。」と私は今回の少年院送致決定を受けた時に裁判官に言われました。この時の私は「だったら少年院送致決定をなくしてよ。それだけで少しは悲しませることもないのに。」と、ひねくれた気持ちで内心は思っていました。

これまでは犯罪までは至らず家出や深夜徘徊が非行の中心でした。けれど、今回は「被害者がいる犯罪」を犯してしまったので、申し訳ない気持ちでいっぱいです。考査期間は裁判官を恨んだりして、周囲に対してイライラばかりしていました。ですが、今になって冷静に考えてみると、自分のダメだった部分を客観的に見ることができ、自分本位だったことに気づいて、自分の事件を後悔しています。それと同時に、私が悪いことをしても必ず迎えに来てくれた母に対してまた裏切ることをしたのだと自責の念に駆られました。

私は普通の人よりも家庭で母と暮らした期間が多くありません。五年間程度しか母と実際に暮らしたことはないのです。なので、中学時代だけが家庭で母と過ごした時間になります。高校に入ると私は非行をするようになって、家庭に居つかず、母と一緒に過ごす時間をつぶしました。一時保護所に入ったり、鑑別所に入ったり、少年院に入ったりすることで母と過ごせるはずだった多くの時間を無駄にしてしまいました。今更ですが、中学を卒業してから普通に生活していたらと後悔しています。あの頃の私は、母は、いつでもどこでも私と関わってくれて見放すことはないだろうと思っていました。それは私が幼い頃、一緒にいられなかった分を埋め合わせするために少しでも時間を作るのは当然だと思っていたからです。母は、何度も私を迎えに来てくれて、どんなに迷惑をかけて苦しめても必ず引き取ってくれていたので、あの頃の私は母を「自分が何回補導されても鑑別所に入っても少年院に入っても必ず迎えに来てくれる人」としか思っていませんでした。今は、こんな馬鹿な考えは持っていませんが、こんな考えを当然のことと思っていました。だから、今改めて自分のやったことや生活、その時の気持ちを整理してみると、少しも母のことを大切にしていなかったと反省しています。

前に書いている通り、これまでの非行は家出や夜遊びといった素行の悪さが原因だったのですが、犯罪という重大なことをやってしまいました。どちらも母を苦しめていることに変わりありませんが、私がした犯罪は母を追いつめてこれ以上ない苦しみを与えてしまったと思います。

私は非行をしてしまった後に、どうしたら同じ失敗をしないか考えたこともありました。でも、状況が変わってしまうと、話が違うと混乱してしまい、母と当たり前の生活を取り戻すことはできませんでした。そのため、母と心の距離もどんどん離れてしまいました。母と離れて暮らしてみて、母からの縛りから解放されたとすっきり感をまず感じました。母といつも一緒に暮らしている姉への羨望や嫉妬からも解放されました。けれど、生活費をなんとか工面して生活したり、家族以外のところで暮らす気苦労に苦しみました。

母とは縁を切ったわけではなかったので、連絡を取り合ったり、月に一回か二回は私が母のもとに会いに行っていました。今までは、「母と一緒にいたい」「お姉ちゃんばっかり構ってもらってずるい」と思っていましたが、離れてみて、その気持ちにさいなまれることはなくなりました。自分で離れて暮らすことを決めて母と話しあった時に「自分に正直に思って

いることを言ってみなさい。」「今まで聞いてあげられなかったことも聞くから」と言ってくれて、私のありのままの気持ちを聞こうとしてくれました。これまで勝手なことばかりしていたのに、私の気持ちを第一にしてくれ、受け止めようとしてくれた母のありがたみをこの時ほど感じたことはありませんでした。母と離れてみての実際の生活は容易なものではありませんでしたが、「初めて自分の考えが母に許された、認められた」とうれしくなりました。このときようやく母の真意がわかり、丁度良い関係性や距離感のようなものを感じることができました。母に応援してもらえるとは思っていなかったので充実感も感じました。このときの私と母の関係は今まで一番良く、相手を思い合って大切にできると感じていました。

けれども、生活の困窮から私は犯罪に手を出してしまい、母をまた泣かせてしまう羽目になりました。入院生活に入った時は、もうさすがに母に捨てられるだろうと絶望感で、いっぱいでした。ですが、今度も母は見放すという選択はせず、「家族だから縁を切ることはない。また、笑顔を見たい。」と言ったり、手紙で「あなたの頑張りはお母さんが見ていくし、感じていきます。」と書いてくれたりしていました。これまでの人生の中で、私は母を喜ばせるようなことはなく、「親不孝でごめんなさい」といつも思っていましたが、今度こそ母の思いに応えるような自分になるという決意を持ちました。少年院での生活は容易なものではありませんが、母の温かい言葉を思い出しては折れずに生活しています。辛いときは、一人ぼっちでやっているんじゃない、母の真心の言葉が寄り添ってくれていると踏ん張るようにしています。

母の存在が、今の少年院での生活を前向きに捉えることにつながっています。目の前に母がいなくても、自分がダメになったりしないように乗り越えていく勇気が少し持てています。

出院した時は、母と同居しないことを決めています。母は離れて生活してみたら互いに相手のことを思いやれる余裕ができたことや、私が独り立ちして生活するに足りる年齢に達したことを受けて、互いのために離れて暮らそうと手紙ではっきりと伝えてくれたからです。「一緒に頑張ることはできる。だけど一緒には生活できない。」と言う文は拒絶ではないことが分かるので、母のもとに帰らず独り立ちすることが目標になりました。具体的には母がどういう理由で同居することをきっぱりと拒絶したのか詳しい内容は手紙には書いてありませんでしたが、母の期待に応えられるようになるために色々な人の助言を受け入れて立ち直りたいです。二度と母を裏切るようなことはしません。

人それぞれ、大切の意味は違うでしょうし、大切と思うものも違うと思います。私は母が大切であるとの気持ちがあるからこそ強く生きられると思います。母をその時の気持ちだけで「好き、嫌い」で表現したくないほど大切に感じています。

寸評

自分の幼い時から、複雑な理由があって母親とは一緒に住めなかった。しかし、いつも会いに来て呉れたり、罪を犯してしまった後も励ましの手紙を送って呉れた「大切な存在」である。従って、それを力に今後は独り立ちして懸命に頑張りたいと深い思考で表現しています。

佳

「少年A」～水に学ぶ～

東北少年院　M・M

僕は今まで非行や、不良交友に囲まれて育ってきました。

そんな僕は当たり前の様に非行をし、当たり前の様に不良交友と関わってきました。そして、その中でも一段と信頼が出来る仲間と暴走族を立ち上げ、地元周辺での地位や名誉を手に入れたと思っていました。

この作文を読んでいるみなさんならお分かりかもしれませんが、不良界での地位や名誉なんて全てが、人様を傷つけたり迷惑を掛け手に入る物です。

社会当時の僕は、そんな薄汚れた地位や、名誉を追い求め、手に入れる為には、関係の有る人だけでは無く関係の無い人までをも巻き込み、迷惑を掛け、傷つけてきました。僕は自分の事しか見えておらず、他人の事など眼中にありませんでした。当時は、そんな自分をカッコよくも誇らしくも思っていました。

そして僕は今、二回の逮捕を経て東北少年院に居ます。一回目捕まった時には、色々なサイトでネットニュースになりました。そこには自分の事は少年Aとしるされており、そのサイトを見た多くの人から批判のコメントが多く寄せられていました。今思うと情けない限りですが、社会に出た後、その記事を目にした僕は、また新しい名誉を手に入れたと思っていました。

そんなどうしようも無い、世の中からは少年Aとして扱われ、胸を張って名前を晒す事も出来ない僕ですが、少年院に来て、日々の生活、課題、面接を通して、自分の価値観について心が揺らいでいる中、あるちょっとした出会いから、その風船の様に揺らいでいた心がパッと晴れ、僕の心は、重く動かぬ岩の様に、頑固たる物に変わりました。

今日は、僕の気持ちの変化を決定づけた出会いについて書いていきたいと思います。

よく暇な時間に、僕は窓の外を眺め雲の形を考えてみたり、蟻が大きな葉を喰わえ動いている様子をポルターガイストと思ってみたりと、自然の中にある、幻想的なファンタジーな世界に入る事があります。僕と僕を変えた物との出会いは、そんな時間に起こりました。

その日、窓の向こうの世界では、「ポツポツ」「ピチャピチャ」と天から雨の雫が落ちていました。その日の余暇時間、いつもの様に僕は窓の外を眺め、自然が作り出す世界にのめり込んでいました。その日僕が注目して見ていたのは「水」です。

そう、「水」こそが僕を変えた物の正体です。

みなさんは水と聞いたらどんなイメージを持つでしょうか？当たり前の様に身近にある存在、多くの人がその様に考えるでしょう。しかし僕の世界に写る水は違って見えました。

そんな僕の世界に写った「水」、僕に人としての在り方を教えてくれた「水」の存在を少しでもみなさんと共有出来たらなと思ったので少しの時間僕の世界へみなさんを招待しようと筆を取りました。

僕が水から学んだ事は、「素直さ」「助け合う事で生まれる力強さ」そして「何ものにも触れさせない力」です。みなさんご存じの通り水は入れ物温度によって様々な変化を見せてくれます。そんな変化を僕と重ね合わせた時、水から沢山の事を学びました。

まず水は入るうつわによって様々な形になります。そんな姿から、その時その時の臨機応変さや、素直さを感じ取れました。

そして水は一滴一滴では強い力を持ちませんが川の流れで岩が削れたり、水害を見て分かる様に、集まる力を合わせればとても大きな物になります。

そして一番今の僕に必要だと感じたのは、高温に熱する事により簡単に触れられなくなる所だなと思いました。

僕はこの三つの観点から自分と重ね合わせました。すると

・どんな入れ物に対しても、つまりどんな人に対しても素直に、臨機応変な対応を出来る事。

・周りの人を信頼し、協力し合う事。

・不良交友にいっさい触れさせない自分を作る事。

このような目標が生まれてきました。

水は、あまり目立つ存在ではありませんが、多くの生き物の命の源になっています。その事から縁の下の力持ちとも言えるでしょう。僕はそんな物理的にも、意識的にも僕を生かし変えてくれた水に、とても憧れを抱く様になりました。「水の様な人間になりたい」と。出院する時、先程上げた目標を達成出来れば、僕は人として成長出来るのかなと思いました。

いかがでしょうか。ほんの一部ではありますが、僕がいつも見ている幻想的な世界について紹介させて頂きました。

この機に、日々の生活の中には、自分を変えてくれる存在が潜んでいます。否、本当に潜んでいるのは自分達の頭の中かもしれません。

今回は最近見つけた、僕から見た水の在り様について書いてみました。身近な存在でも色々な世界観から見てみると、様々な気づきを得られると思います。

この作文を通じて、僕の世界観を共有する事により、更生を望む人達に少しでも内省の足しになればと思っています。

まずは今まで見てこなかった物や生き物等に目を向けてみて下さい。そこには必ず自分だけが持っている幻想的な、ファンタジーなワンダーランドが存在するはずです。

寸評

自然現象の一つである水に目を凝らして、其の水の存在に学んだと言う事を順序良く述べています。「素直さ」「助け合う事で生まれる力強さ」「何にも触れさせない力」を学んだと、深い思考を重ねつつ丁寧に述べています。「水」への視点が独特で、柔軟さもあって納得出来ます。

詩の部

審査員

日本現代詩人会会員
日本文藝家協会会員
宮城県詩人会顧問

原田　勇男　先生

金

想い

盛岡少年院　S・Y

言いたい
この想い
でも言えない
胸の中に残る
様々な想い
彼女に伝えたい
家族に伝えたい
込み上げてくる
想いが
口から出ない
遠慮する
緊張する
恥ずかしい
言えない事に
腹が立ち
様々な想いが
胸に残り
やがて消え
後悔する
言えない想いに
意味はない
何も始まらない
伝えるべき相手に
言えたその瞬間
想いは
言葉になり
花になる
一歩を踏み出す
その決意が
想いを
言葉にする
もう後悔しない
この想いのために
私は想いを言葉にし
扉を開け
新たな道を
切り開く

寸評

心のなかで思っていても、口に出せないことがある。特に、若い人の場合は恥ずかしさや照れくささがブレーキとなって、言いたいことがあっても、うまく言えないが、勇気を持って発言することからすべてが始まる。「伝えるべき相手に／言えた瞬間／想いは／言葉になり／花になる」。後半の詩句がさわやかで、その前向きな姿勢に好意を抱いた。

銀

「未来と僕と歩く道」

東北少年院　K・S

いつかは消えてなくなる
　大切なものも僕自身も
誰のために生きているのか。
　一つしかない人生を
　　きっと分かってる、聞こえる
　　「今のままじゃだめだ」という声
　それは僕の声に似ていた
踏み出せないのは、恐いから
　恐いのは、未来を知らないから
いつまでそうしているのだろう
　見たい景色は胸にあるのに
誰も助けてはくれない
　　僕の生きる道だから
　示す道筋はすぐそばに
　　迷わないよう光り輝く
誰のために生きているのか。
　踏み出し叫ぶ、僕の名を
　声の限りに僕の名を。

寸評

この人の場合も、一度しかない人生をどう生きたらいいか迷っている。わかっているのは「今のままじゃだめだ」ということだ。見たい景色は自分の胸にあり、だれも助けてくれないから、自分の道は自分で切り開くしかない。だれのためでもない、自分の人生は自分で切り開くしかないことに気づいたとき、そこから第一歩が始まるのだ。

※応募数が選定数に満たないため、銅賞、佳作の選定はありません。

短歌の部

審査員

日本歌人クラブ会員
「地中海」会員
宮城県芸術協会　文芸部運営委員
宮城県歌人協会「地中海湾の会」副代表

上林　節江　先生

金

最終回マウンドで投げたあの一球忘れられない達成感

盛岡少年院　S・S

寸評：喜びの記憶は精神の宝物。短歌に詠むことにより言葉のアルバムにしっかり記録されました。今後も努力をして多くの達成感を引き寄せましょう。

銀

母の味溢れる想い口の中過去の思いであの味はない

盛岡少年院　S・Y

寸評：「あの味はない」と断言した所に痛みを感じますが、本音だなと頷きました。次は、自分の心を上向きに詠んでみましょう。世界が変わって見えますよ。

銅

元気かなみんなの期待忘れずに早く戻るよ待っててくれな

盛岡少年院　H・Y

寸評：心に浮かぶ人々へ呼び掛けるように詠んだ点がいいですね。人とのつながりは人生の財産です。しっかりと結び見失うことなく歩みましょう。

佳

夏休み家族みんなで海へ行く朝風あたる気持ちがいいな

盛岡少年院　S・Y

寸評：爽やかな作品です。つぶやくような表現は短歌そのものです。「気持ちがいいな」と清らかに思えることはこの世にたくさんあります。それを探して、まっすぐに生きましょう。

俳句の部

審査員

現代俳句協会宮城県支部幹事
宮城県俳句協会常任幹事
宮城県芸術協会委員

鈴木　三山　先生

金

夏来れば大合唱だせみの声

盛岡少年院　O・R

寸評：夏とせみと季語が二つ入っているが、大合唱であることを強調しているので容認できると思う。今年の夏は例年より蝉の声が多かったようである。

銀

桜舞う校門前に人盛り

盛岡少年院　N・R

寸評：春は別れと出会いの季節である。桜の舞う校門前には入学式での生徒や父兄で人盛りがしているのだろう。目に浮かぶようである。

銀

暑い日が肌を焼きつけ染めあげる

盛岡少年院　S・S

寸評：猛暑の夏は日焼けが大変だったことだろう。じりじりと照りつける夏の太陽が、肌を真っ黒に染め上げていく様子が浮かぶ。

銅

天の川願いを胸に星の海

盛岡少年院　S・Y

寸評：夜空を見上げていると本当に天の川だけではなく、巨大な海が広がっているように感じられる。地球はちっぽけな星の一つに過ぎないが、私たち人間の大事な星なのである。

銅

水たまり照らす太陽梅雨の明け

東北少年院　K・S

寸評：雨上がりには至る所に水たまりが出来る。梅雨明けの太陽はそんな水たまりに照りつけるのである。いかにも眩しい梅雨明けの様子が描けている。

銅

秋風に紅葉ゆられハイタッチ

東北少年院　N・I

寸評：秋晴れの日に紅葉狩りにでも出かけたのだろうか。歩くたびに見事に色づいた紅葉が揺れている。思わずジャンプしてハイタッチした気持ちの高ぶりが良い。

佳

夜の空綺麗に咲いた恋花火

盛岡少年院　N・R

寸評：花火の美しさが目に見えるようであるが、「恋花火」というのが分かりにくい。恋人と一緒に花火をしているのか、それとも一緒に花火見学をしているのかな。

佳

暑い夜キレイな花火が咲き誇る

盛岡少年院　S・S

寸評：暑い夜も花火も夏の季語なので、暑い夜は省いた方が良いだろう。どこか具体的な花火大会にしたらいいのではないだろうか。

佳

短冊に願いを込めて幸せに

盛岡少年院　S・Y

寸評：短冊に願いを込めるのは七夕祭りだろう。どのような願いなのかは分からないが、とにかく幸せを願うことは誰にでも通じることかもしれない。

佳

スイカ割り掛け声従い的を射る

盛岡少年院　O・R

寸評：スイカ割りの様子が良く分かる。ただ「掛け声従い」はリズムが悪い。「的を射る」は正しい表現だが、どちらかというと弓矢に使われるので、もっと違う表現を工夫して欲しい。

佳

さみしいな庭に飛び交う秋あかね

東北少年院　I・S

寸評：普通だと赤とんぼを見かけて嬉しいとなるところなのに、さみしいと感じたところに興味を覚えた。俳句では自分の気持ちは物に託すのがいいのだが、この場合は効いていると思われる。

川柳の部

審査員

川柳宮城野社同人

宮城県芸術協会会員

佐藤　岩男　先生

金

偉そうな先輩いつも金がない

盛岡少年院　T・S

寸評：偉そうに見える（恰好つけてる）先輩にはええ恰好させて下さい。多分心の中では後輩に感謝していると思います。十分に。

銀

夏休み曜日感覚皆無です

盛岡少年院　W・R

寸評：お休みが長く続くと、曜日など、つい忘れがちになります。社会人になると大変です。ゴミを出す日を間違えたり、バス等の休日ダイヤに気づかなかったり。

銀

ふと思い思い浮かんだ友の顔

盛岡少年院　I・K

寸評：「思い」「思い」のリフレインが、非常に効果的で、友情の深さがよく伝わりました。一生の友達を見つけたいせつにして下さい。

銅

桜散り次に咲くまで休んでる

盛岡少年院　E・M

寸評：桜も人目を引くのはほんのちょっとの期間ですが、その為に長い時間エネルギーをたくわえているのですからえらいものだと思いませんか。

銅

懸命に取り組む割に結果出ず

盛岡少年院　I・K

寸評：努力しないで成果を挙げても何も残りません。むしろ、努力して失敗した方が、自分自身の栄養になると思いませんか。なぜ失敗したか、どうすれば良いか目指せ！

銅

寂しいな自分偽る夜の町

東北少年院　Y・Y

寸評：夜の町（街）はやっぱり偽の町（街）ですから、集う人たちも偽の姿なのでしょう。翌朝の町（街）の姿ほど虚しいものはないようです。

佳

頑張ってその一言で安心感

盛岡少年院　S・S

寸評：あるマラソンランナーの話です。30㎞あたりがもっとも苦しいところだそうですが名指しで「がんばれ！」の声が耳に入ると、勇気・元気が、何倍にもふくれあがるとか。

佳

一番に言いたい言葉ありがとう

盛岡少年院　O・R

寸評：そうです。「ありがとう」の一言をかけられればこんなに嬉しいことはありません。けんかから戦争まで、あらゆる争いごとを吹きとばしてしまうに違いなしです。

佳

朝起きてまだ眠いけどもう七時

盛岡少年院　S・S

寸評：若い時の睡眠時間の確保は、脳の成長にとっても重要だそうです。赤ちゃんはよく寝ていると思います。と言っても「過ぎたるは…」です。ご注意を。

佳

日々感謝覚悟も努力もこの胸に

盛岡少年院　O・I

寸評：その通りです。感謝の気持ちはきちんと表に出した方が良いとは思いますが、覚悟を決めたり、努力している事は見せびらかす必要はありません。伝わるものです。

佳

涙ならとうに涸れたよあの日から

東北少年院　M・S

寸評：あの弁慶でさえも、生涯に三度は泣いたそうです。（調べてみて下さい）「男は人前で涙を見せるな」これは元武士だった私の祖父の教えです。

文芸部門審査総評

―作文の部―

今回の応募数は、六編だけでした。しかし、主張する内容が、思索的で納得できる作品ばかりでした。四編だけの掲載で残念ですが、未掲載の青葉女子学園のひさん「期待は原動力」優しいお母さんや先生方の温かい期待が、自分にとっては更生への原動力になる、と表現された内容に感心しました。盛岡少年院のM・Cさんの「這い上がるために」は、お母さんからの励ましの手紙に応じて、今後は、しっかり正道に「這い上がるために」も、その努力を続けたいとの意志を順序良く綴っていました。

川田　永子

―詩の部―

応募作品が二篇と少なかったのは残念だ。「想い」「未来と僕と歩く道」の作品は、どう生きて行くかについて思い悩みながら、最善を尽くして自分の道を探すことが大切だという考えを内包している。時には悩むこともあるが、思いきって自分の考えを相手に伝えることから、未来が開けることがある。トライしてみて駄目だったらまたやり直せばいい。人生はまだ始まったばかりだから、少年らしく元気に進んで行こう。

原田　勇男

―短歌の部―

若い人が短歌を作ることは、とても良いことです。

私は中学生の時、石川啄木の短歌を読み強い感動を受けました。

・石をもて追はるるごとくふるさとを出でしかなしみ消ゆる時なし

・たはむれに母を背負ひてそのあまり軽きに泣きて三歩あゆまず

・こころよく我にはたらく仕事あれそれを仕遂げて死なむと思ふ

啄木の短歌は、自分の思いを率直に詠み、多くの人の共感を呼び愛誦されています。思春期、青年前期の躍動する心を、どうか短歌にぶつけて下さい。その営みは自分の心との対話です。慰め、励ましを感じ、人間として成長できます。

今回の提出作品の数は少なかったですが、どれも素直で初初しいものでした。これからが期待されます。多くの若い人が短歌を作ってほしいと願います。

上林　節江

―俳句の部―

先ず残念なことは応募者の数が少ないことです。できれば成人の部に近いくらいだと何よりだと思われました。

全体的にとても素直で俳句を作って頂いているので感激しました。ただ季語が二つ入っているのが見られました。できるだけ一句の中に季語は一つにして欲しいと思います。それに季語はなるべくたくさん覚えて欲しいものです。季語が豊富だといくらでも良い俳句が作れるようになりますよ。

次回はもっと多くの方に参加して頂くように願っております。

鈴木 三山

―川柳の部―

生まれてはじめて「川柳」に挑戦された方も、少なくなかったとは思いますが、いかがでしたか。川柳は特別に難しい言葉を使ったりすることもありません。普通の日常生活で使っている話し言葉（口語）を並べてみれば良いだけのことです。

ただ、五音・七音・五音という全体で十七音の制限された中で、自分の気持ちを中心にして、いろいろなことを表現しようとするのですから、言葉の重複などの無駄は可能な限り省略するようがんばってみましょう。

素直な気持ちを自分の言葉で表現すると言っても、そのまま直接ぶつけるよりも何かにたとえて表現してみると、句にも広がりが出来、句の恰好もつくようです。

女の子タオルを絞るように拗ね　三太郎

佐藤 岩男

絵画の部

審査員
宮城県芸術協会理事長
吉田　利弘　先生

金

世にも不思議なバラさん

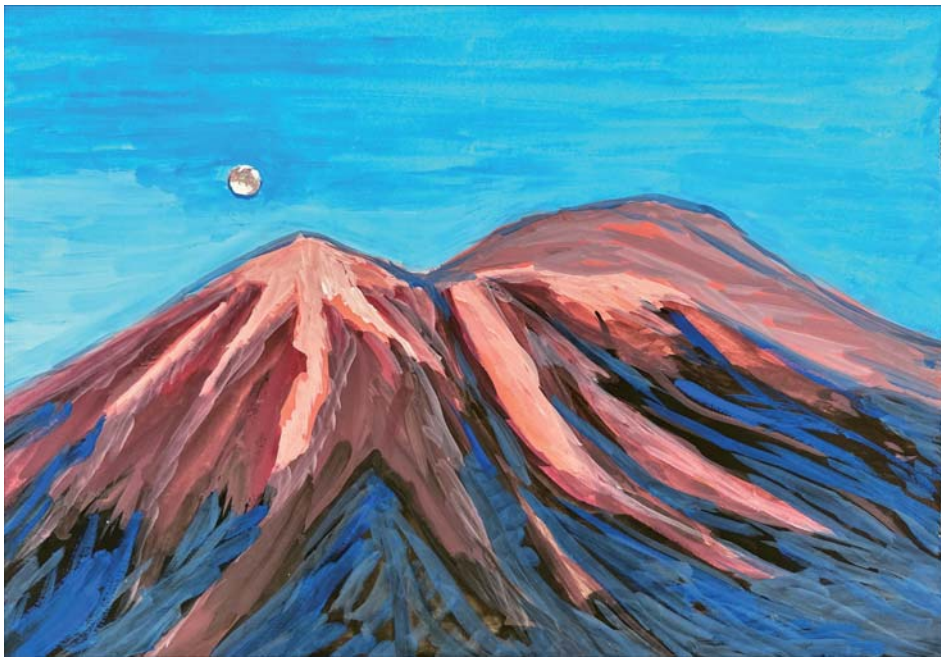
盛岡少年院　S・T

寸評：花びら、葉、花瓶の色合いが工夫され、背景の配色とマッチして効果的。

銀　裏世

東北少年院　K・S

寸評：彩度を落としたグレー調の色面構成で不思議な世界が演出されている。



銀　山

盛岡少年院　E・M

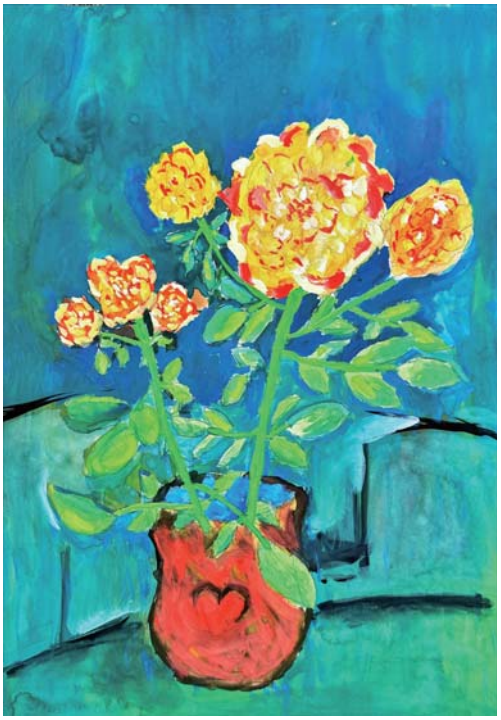
寸評：陽に焼ける岩手山、空に浮かぶ月、静かな空間を感じる。

銅

窓辺

東北少年院　S・H

寸評： 窓の外はしんしんと降る雪、それだけにシクラメンの花を通して、室内のぬくもりを感じられる。



銅

梅雨のバラ

盛岡少年院　S・Y

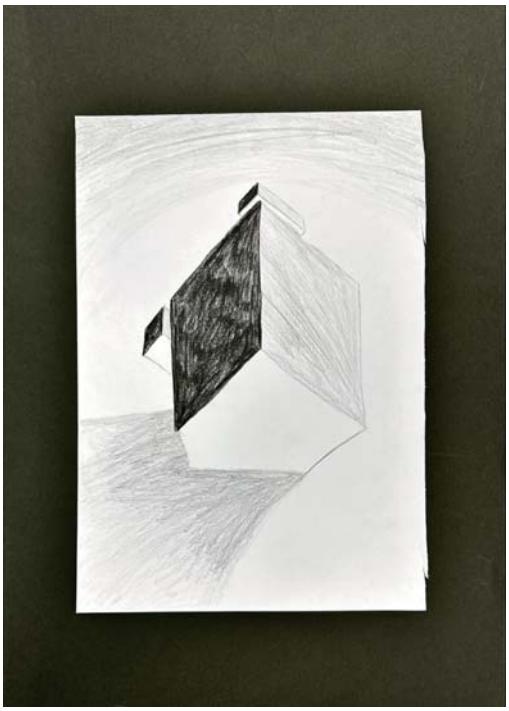
寸評： 筆の置き方に勢いが感じられる。モチーフと背景の色が効果的に響いている。

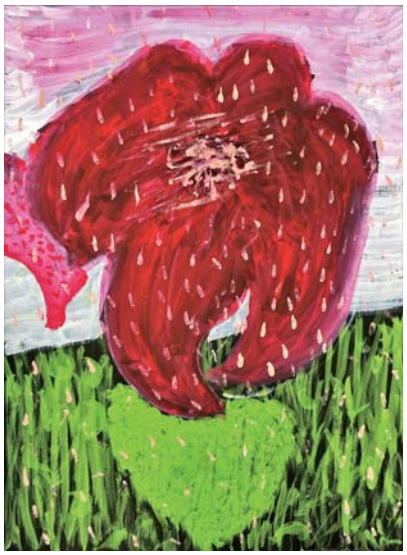
銅

人の心

東北少年院　I・S

寸評： 立体的にモノクロのトーンで描かれ、人の心の深奥を感じさせる。





佳

赤と緑の世界

東北少年院　T・R

寸評：一見、巨大な花を連想させるような不思議な感じが表れている。

佳

岩手山の素顔

盛岡少年院　S・S

寸評：凍てつく空気にも耐える岩手山の雄大さを感じ取ることが出来る構図と彩り。

佳

名前のない花

盛岡少年院　K・Y

寸評：花瓶、平面に落とされた影、彩色の在り方が大胆で、魅力を感じる。

佳

キレイな風景

盛岡少年院　I・K

寸評：澄んだ空の広がり、陰る山の色合い、静けさがしっかりと表現されている。

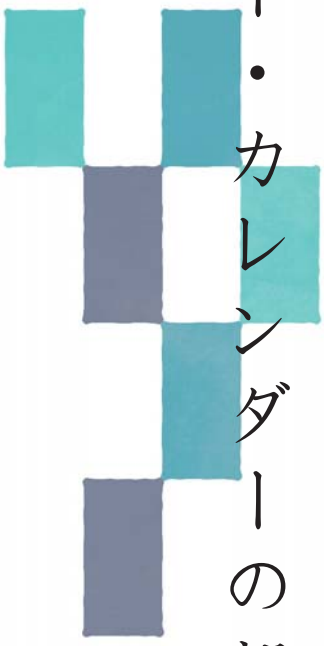
佳

俺のバラ

盛岡少年院　O・I

寸評：テーブルの上に佇む二つの花瓶とバラ、全体の色調に優しさが感じられる。

ポスター・カレンダーの部



審査員

宮城県芸術協会運営委員

鈴木　智枝　先生

金　自分と人生が溶けてしまう前に

東北少年院　S・K

寸評：標語がしっかりレタリングされ、ポスターの役目を果たしています。
カレンダー作品も秀作です。

銀　令和５年１月

東北少年院　N・I

寸評： ユーモアも漂い、楽しいカレンダーです。数字のレタリングをもう一歩大きくしてほしい。

銅　令和５年11月

東北少年院　S・Y

寸評： 立体的に交差した黄色のテープが面白い。着彩の筆ムラに気を付けてください。

佳　無意識で傷付く心がある

東北少年院　S・H

寸評： 優しさのある標語に惹かれます。ポスターとしての文字のレタリング、配色などもう一歩です。

毛筆の部

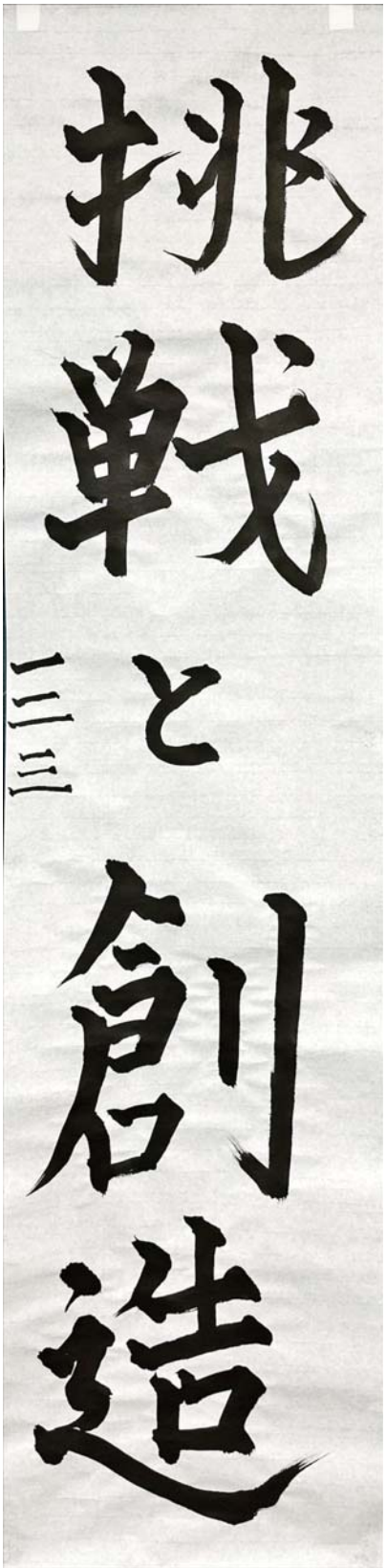
審査員
東北書道会副会長
村山柳雅先生

金

当意即妙

青葉女子学園　わ

寸評：点画確実で、字中の懐広く明るい作品。



銀　挑戦と創造

東北少年院　一二三

寸評：漢字を大きく平仮名を小さく、紙面のバランスが良い。

銀　白砂青松

青葉女子学園　ひ

寸評：用筆に安定感があり、太い書線が伸び伸びと躍動している。

銅

誠実

東北少年院　仁

寸評： 重厚な線条が、強く凛とした雰囲気を醸す。

銅

志操堅固

青葉女子学園　わ

寸評： 多画の漢字があり、苦労したであろうが、中心を通し、良くまとめた。

銅

至誠天に通ず

東北少年院　常

寸評： 六文字に挑戦し、一気呵成に書き上げ、若さ溢れる。

佳

勇猛精進

東北少年院　淋

寸評：難易度高い漢字を丁寧に書作し、好感度ある作。

佳

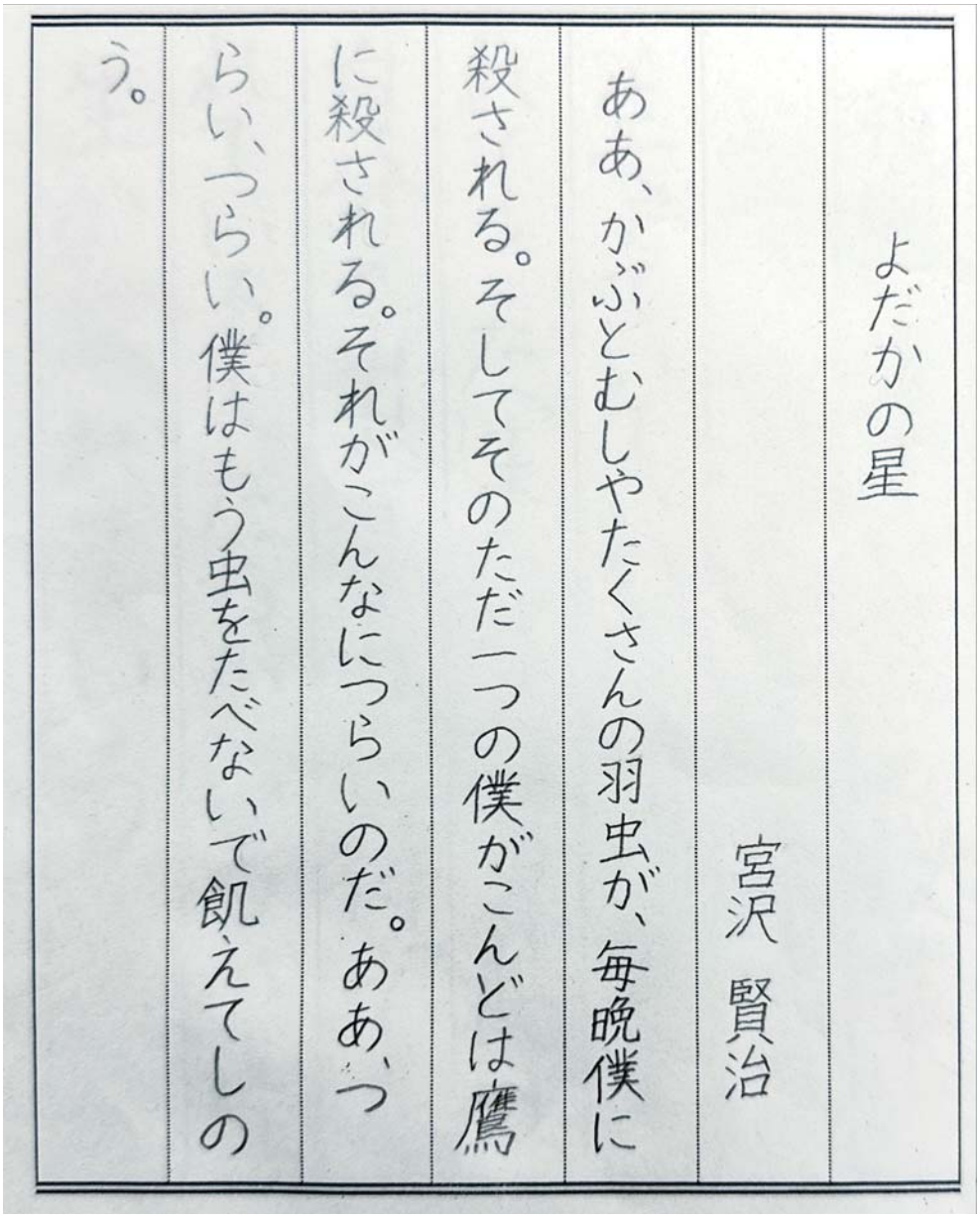
誠実

東北少年院　愛

寸評：力のこもった、起・収筆と勢いのある払いはエネルギッシュ。

硬筆の部

審査員
東北書道会副会長
村山　柳雅　先生



よだかの星

宮沢　賢治

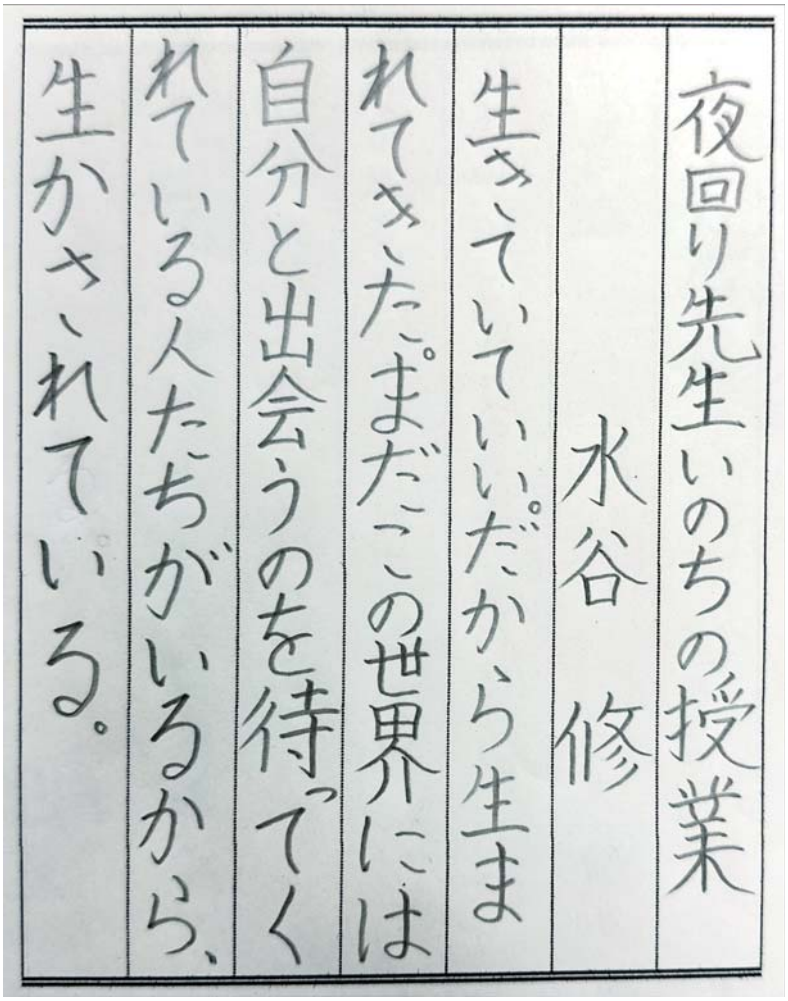
ああ、かぶとむしやたくさんの羽虫が、毎晩僕に殺される。そしてそのただ一つの僕がこんどは鷹に殺される。それがこんなにつらいのだ。ああ、つらい、つらい。僕はもう虫をたべないで飢えてしのう。

金

よだかの星

盛岡少年院　O・I

寸評：行の中心の振れがほとんど無く、多字数を丁寧に書き上げ見事。



夜回り先生いのちの授業

水谷　修

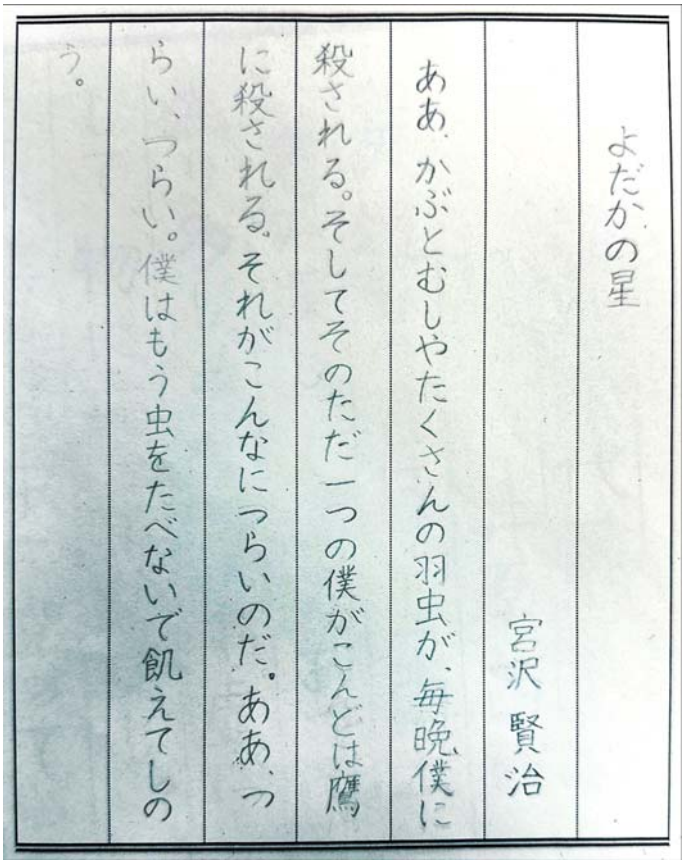
生きていていいだから生まれてきたまだこの世界には自分と出会うのを待ってくれている人たちがいるから、生かされている。

銀

命

東北少年院　Y・Y

寸評： 大きめの文字を行内にしっかりと収め、素直な明るい風趣が良い。



よだかの星

宮沢賢治

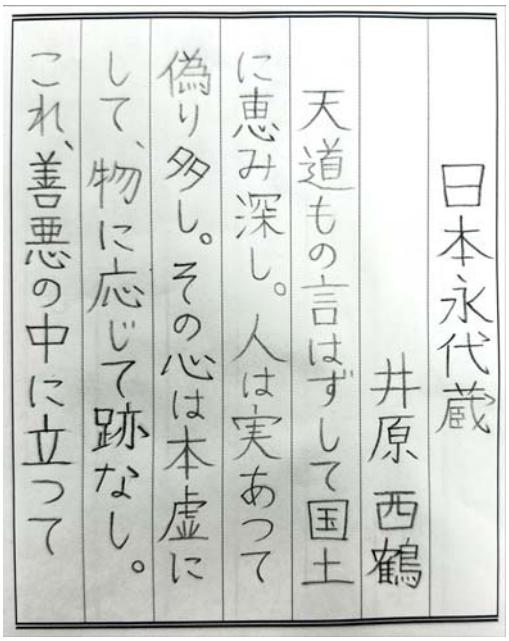
ああ、かぶとむしやたくさんの羽虫が、毎晩、僕に殺される。そしてそのただ一つの僕がこんどは鷹に殺される。それがこんなにつらいのだ。ああ、つらい、つらい。僕はもう虫をたべないで飢えてしのう。

銅

よだかの星

盛岡少年院　S・T

寸評： 丸みのある優しい文字で、温和な雰囲気が印象深い。

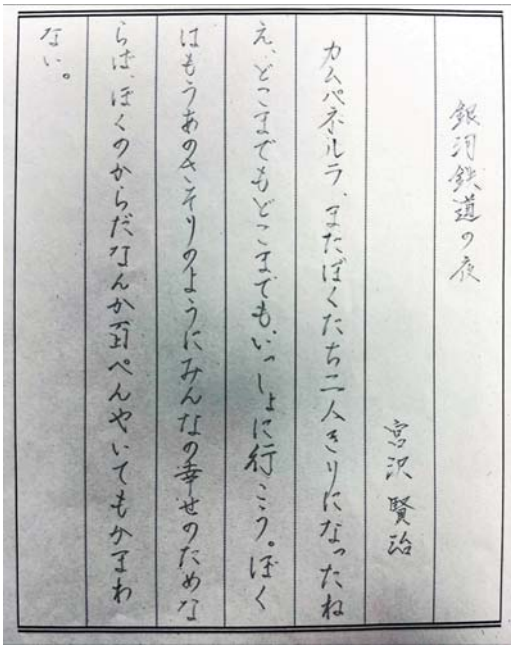


佳

日本永代蔵

青葉女子学園　H・H

寸評：一点一画確実に時間を掛けて書き上げたであろう好作品。

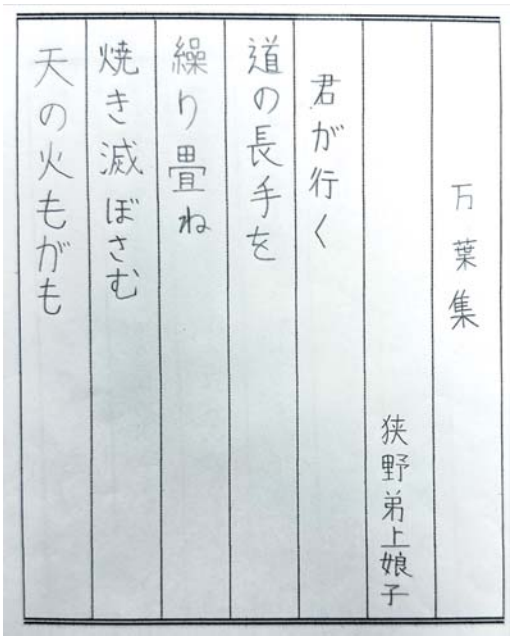


佳

銀河鉄道の夜

盛岡少年院　W・R

寸評：紙面に多文字を書き上げ圧巻の作。字中に流れもあり練度高い。



佳

万葉集

東北少年院　S・R

寸評：前者同様、点画をしっかりと書き、四角形の文字群は個性光る。

書画部門審査総評

―絵画の部―

年々少なくなってくる作品数。そんな中二点の作品を出品された方の姿勢に感激。表現の在り方は、形、色、構図の工夫であるが、画面に表されたもの以上に描いた人の思いがそれぞれに感じられる。今年も小さな画用紙の中に様々な世界が展開され感慨深いものがあった。

吉田　利弘

―ポスター・カレンダーの部―

ポスターやカレンダーは標語や数字が美しく、きちんと描かれていることが大切です。又、遠くからでも目に付く色彩であることなども大切です。それらを意識して選定いたしました。

鈴木　智枝

―毛筆の部―

多画で難しい漢字や、バランスの取り方に練度を要する字が多く、書き上げるまで随分努力が必要だったと思う作品がほとんどだった。どの作品もしっかりと書作し、好感度が高い。

村山　柳雅

―硬筆の部―

施設により課題の文字数に違いがあったが、多字数の作品は終始丁寧に確実に行内に文字を収め、良くまとめていた。文字数の多くない作品も、大きさや字形をしっかりと書き、明るく若々しさ溢れ、それぞれに良い点を引き出し、完成度高かった。

村山　柳雅

編集後記

本年度も、みちのく書画文芸コンクールとして書画作品及び文芸作品の応募を募りましたところ、各施設からこれまでと変わりなく多数の作品が寄せられ、本書画文芸作品集の発刊の運びとなりました。

文芸作品については、御審査を賜りました先生方の多大なる御協力のもと、各分野において金賞、銀賞、銅賞及び佳作作品を選定することが叶いました。

紙面の都合上、一部しか掲載することができないことが残念です。

末筆になりましたが、本誌の刊行に当たり、御審査と御指導を賜りました先生方に、誌上を借りまして厚く御礼申し上げます。

仙台矯正管区